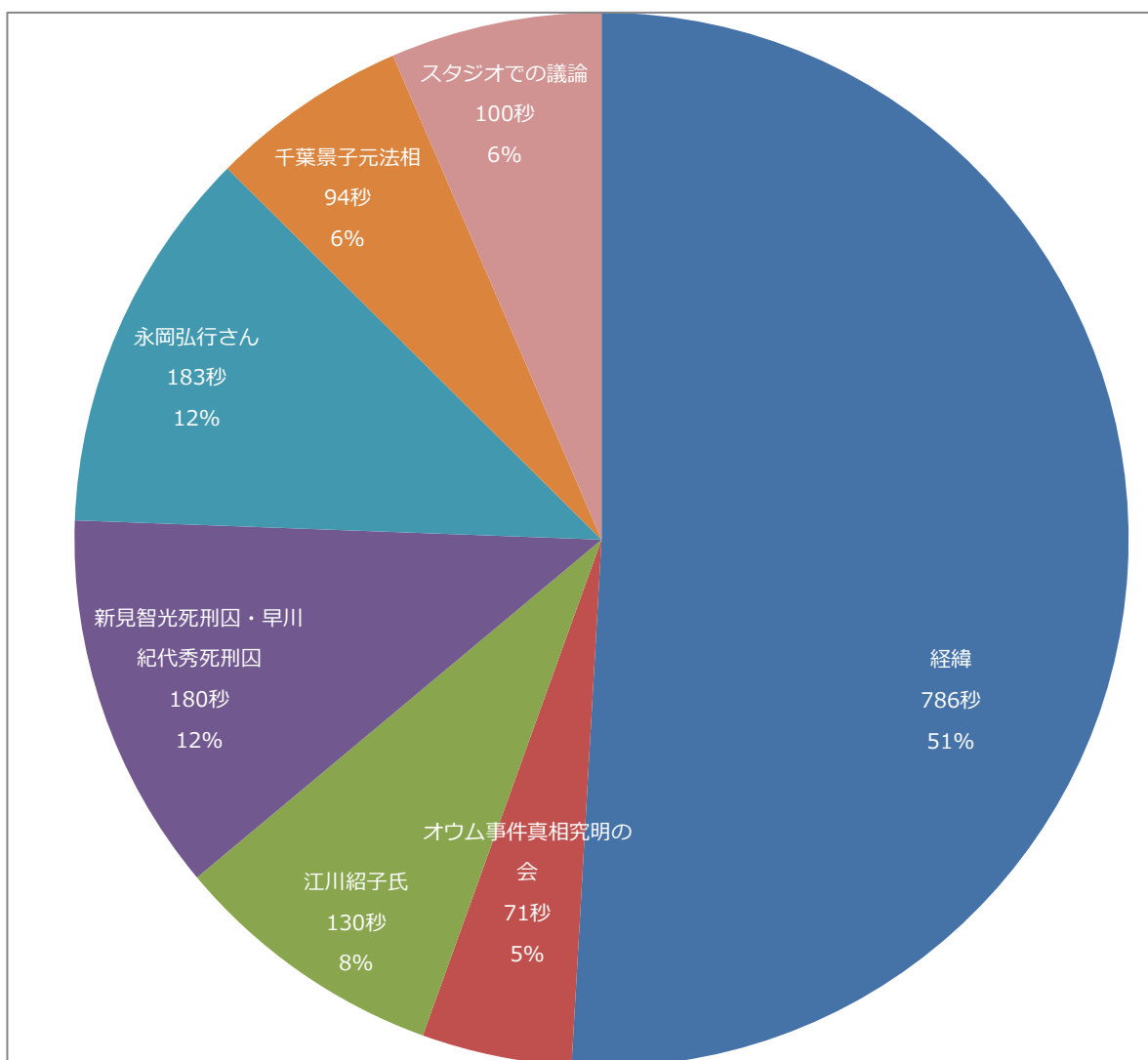


TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日： 2018 年 7 月 7 日
<p>出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子</p> <p>※金平キャスターが広島から、日下部キャスターは福岡から中継</p> <p>ゲスト：福島隆史(TBS 解説委員、災害担当)</p> <p style="padding-left: 40px;">順田忠彦(オウム事件を取材してきた記者)</p>		
<p>検証テーマ：松本元死刑囚の妻と二人の娘が東京拘置所へ</p> <p style="text-align: center;">【特集】 オウム真理教事件：死刑囚 7 人への死刑同日執行</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西日本を襲った記録的豪雨 ・ 横浜、点滴異物混入で二人死亡、警察は元看護師の女の逮捕状請求 ・ タイの洞窟に閉じ込められた少年の救助作業難航 ・ 松本元死刑囚の妻と二人の娘が東京拘置所へ ・ 【特集】 西日本豪雨 ・ 【特集】 オウム真理教、死刑囚 7 人の死刑執行 ・ スポーツ報道 ・ 速報：横浜大口病院事件で元看護師の女を逮捕 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング：結論→特に問題なし <p style="padding-left: 20px;">オープニングでは膳場キャスターが「こんばんは 7 月 7 日土曜日報道特集です。大雨が続いています。金平キャスターは被災地に行っています。金平さん」とのコメントを承けて、広島で取材中の金平キャスターが「はい記録的な大雨で大きな被害が出ている広島で取材中です。被害は今も広がっています。改めて自然の猛威を思い知らされています。時を同じくして昨日 7 人の死刑囚が処刑されました。刑の執行で一体何が救われ、何が失われたのか。大雨被害の後の特集でお伝えします。」と応答した。このシーンに当てられた時間は 34 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 松本元死刑囚の妻と二人の娘が東京拘置所へ：結論→特に問題なし <p style="padding-left: 20px;">松本智津夫元死刑囚の四女が今日午後代理人の滝本太郎弁護士とともに東京拘置所を訪れたこと、四女は遺体の引き渡しを巡って拘置所側と調整したものと見られていること、刑の執行を受けて四女は瀧本弁護士のブログを通じてコメントを公表し被害者や遺族らに謝罪をした上で「松本死刑囚は一度の死刑では足りないほどの罪を重ねましたが彼を知る人間の一人として今はその死を悼みたい」と述べたことが報じられた。また、関係者への取材で松本元死刑囚の妻と三女も東京拘置所を訪れていたこともわかったことが伝えられた。</p> <p style="padding-left: 20px;">このトピックに当てられた時間は 65 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。</p> <p style="padding-left: 20px;">なお、オウムについては特集でも扱われていたが、遺体の行方については独立したトピックとして扱われていたので検証対象としても独立したものとして扱うこととした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 【特集】 オウム真理教事件、死刑囚 7 人への死刑同日執行：結論 <p style="padding-left: 20px;">オウム真理教事件および死刑囚 7 人に対して死刑が他の死刑囚に先行して同日執行されたことが報じられた。</p>		

オウム真理教事件及び死刑についての経緯の説明、オウム事件真相究明の会の見解、江川紹子氏へのインタビュー、新見智光死刑囚および早川紀代秀死刑囚の手記、永岡弘行さんへのインタビュー、千葉景子元法相へのインタビュー、スタジオでの議論が主なポイントとして挙げられた。このトピックに当てられた時間は 1544 秒で、これらポイントへの時間配分および比率は以下の通りであった。



経緯説明ではオウム真理教事件やその死刑囚のうち七人の死刑が先行して執行されたこと、東京拘置所の様子、遺族の声などが伝えられた。また、死刑執行は前日警察庁出身の秘書官が総理に伝えるのが慣例となっていること、ある検察幹部によると 7 人の死刑執行総理に伝えられたのは 3 日も前の今週火曜日で、国家安全保障局長、内閣情報官、公安調査庁次長の三人が同時に総理と面会していたとのこと、今回の死刑執行は治安を重視した極めて政治的な判断が働いたことがうかがわれるとのことも伝えられた。

オウム事件真相究明の会について以下に朱記したシーンが取り上げられた。

ナレ「昨日死刑が執行された松本死刑囚の裁判は 1996 年に始まったが、途中から法廷で大声を出すなど奇行を繰り返すようになり、事件の真相について語ることは最後までなかった。先月 4 日作家や大学教授らが呼びかけ人となり、オウム事件真相究明の会が結成された。会では松本死刑囚が精神疾患にかかっている可能性があるとして死刑を執行する前に治療を行うべきだと主張した。」

想田和弘さん(映画監督)「証言をきちっととることもなくですねこのまま殺されてしまうんじゃないかというのはこれは単純に法律の問題としておかしくないかっていう。」

森達也(作家・映画監督)「動機が分からないんですよ。動機をかたれるのは麻原だけです。でも彼は一審途中から完全に精神的に崩壊したと僕は思ってます。」

江川紹子氏については以下に朱記したシーンが取り上げられた。

ナレ「しかし長年オウム真理教について取材し、事件の裁判を傍聴してきたジャーナリストの江川紹子さんはこうした考えに否定的だ。」

江川紹子氏(オウム事件を取材してきたジャーナリスト)「真相云々とおっしゃる方もですね裁判をずっと傍受されてきた方はいらっしゃいませんよね。あの裁判というのはやっぱり麻原彰晃こと松本智津夫の裁判だけではなくていろんな裁判が開かれました。そういう中で事実関係というのはほとんど解明されたと思います。中には麻原をしゃべらせようなんてことを言ってる人もいますけれども、そんな軽いことを言わないでほしいと。彼(麻原死刑囚)のもとで事件を犯してしまっただけで今日執行されたような重大な事件を犯した人もなんとか彼にしゃべってもらいたいときちっと事実に向き合ってなんでこんなことをしてしまったのかということ語ってほしい、あるいは被害者に詫言いでほしいと、もう本当に血がほとぼしり出るようなそういう説得をしてるんですよ法廷で。」

ナレ「江川さんは松本死刑囚への刑の執行は当然だが、6人の元教団幹部に対する刑の執行が同時に行われたことについては残念だと話す。」

江川紹子「オウムと出会う前はですね、ごく普通の若者であり、むしろまじめにいろんな問題を考える人たちだった訳ですよ。そういう人たちをどうしてこんなあのひどいことをするまでに至ったのかっていうことを、刑事事件としては明確になっていてもですね、例えばその心理学者とかあるいはテロの専門家とかですね。そういう人たちからその人たちに対してきちっと事情聴取をしてですね。で研究を深めていくとそういうことが全くなされないで、執行されてしまったということは非常に残念だなと思います。」

新見智光死刑囚や早川紀代秀死刑囚の文書については以下に朱記したように取り上げられた。

ナレ「松本死刑囚、尊師の直弟子を公言していたのが新見智光死刑囚だ。教団が起こした7件の殺人事件すべてで関与が認定された。新見死刑囚は死刑執行の直前、国に対して無期懲役への減刑、恩赦を恩赦を求めている。これは一週間目に提出された新見死刑囚がつづった文書だ。弁護士に対し自分の刑が執行されたときには文書を公表してほしいと伝えていたという。」

新見死刑囚の文書「私たちの徳がなかった、霊性と知性が足りなかったのでしょうか。深く反省しています。虫も殺生しないよう用心しています。もう殺生の指示をする人はいません。今は償うことだけしか頭にありません。」

ナレ「反省の言葉を語る一方で生きることへの執着もにじませた。」

新見死刑囚の文書「死刑されるよりも無期懲役囚となり遺族、被害者と交流することでお互いが救われると信じています。もし、遺族、被害者そしていきとし生けるものの役に立つのなら、生きて償うことに残された生を捧げます。」

ナレ「一方坂本弁護士一家殺害事件の実行犯だった早川紀代秀死刑囚、これは7年前に書かれた早川死刑囚直筆の文書だ。報道特集が独自に入手した。」

早川死刑囚の文書「殺して償わせることができるものとは何でしょうか？償いは生かしてこそできるものではないでしょうか？」

ナレ「さらに地下鉄サリン事件の実行犯のうち唯一無期懲役の判決となった林郁夫受刑者について言及し、自らの量刑に対する不満を述べている。」

早川死刑囚の文書「林郁夫は共同正犯として12人を殺し、自分の手でも2人を殺していますが、死刑を求刑すらされず、無期判決です。一方自分の手では殺していない私は死刑です。いったいこの差は何なのでしょう。」

元信者の父親で信者を奪回させる支援を続けてきた永岡弘行さんについては以下に朱記したように取り上げら

れた。

ナレ「今年三月私たちは元信者の父親取材した。永岡弘行さん 80 歳。長男がオウム真理教に入信したことをきっかけに家族の会を結成。以来 30 年にわたって信者を脱会させる支援を続けてきた。その間オウム真理教によって猛毒の VX ガスをかけられるなど命の危険にもさらされたが、一連の事件の真相を知りたいと、元幹部の死刑囚らと面会を重ねてきた。」

永岡弘行(オウム真理教家族の会)「なんでこういう問題が起きたのかということをお納得のいくような状態になるまでちょっと伸ばしたっておかしくないんじゃないかと。なぜそうなったのか。なぜそういう風にせざるを得なかったのかと。」

膳場「まだ死刑囚たちから語ってもらいたいことがある？ 永岡氏 絶対あると思います。」

ナレ「永岡さんは松本死刑囚以外の元幹部についてはマインドコントロールを受けたことによる犯行で、彼らの口から真実を語られるまで死刑執行に反対だとの時漏らしていた。昨日松本死刑囚らとともに 6 人の元幹部らの死刑が執行された。死刑囚の親たちとの交流があったん永岡さんは。」

永岡「親御さんに連絡を入れると思う。」

膳場「なんてお声をおかけになりますか？」

永岡「向こうのお母さん、お父さん、または私、なんか言葉がでないで終わるような気がしますね。」

膳場「今回の死刑執行は一つの区切りとして受け入れられましたか？」

永岡「いや。なぜこうなったかということが何にもね、出てないじゃないですか。なぜ命を奪ったんだろかということがまるっきり考えられていない。究明されていない。俺はどうしたらいいんだろかというものが正直な気持ちです。」

ナレ「かつて永岡さんの活動によって教団を脱会できた長男は昨日の死刑執行を受けて」

膳場「元信者の息子さんとは今回の死刑執行に関してお話はされましたか？」

永岡「ちょっとだけね。単刀直入に、よかったなど。息子はありがとうございましたといました。」

民主党政権で法務大臣を務めた千葉景子氏へのインタビューは以下に朱記したシーンが取り上げられた。

ナレ「民主党政権で法務大臣を務めた千葉景子氏、死刑の執行を決断した時の気持ちをこう振り返る。」

千葉元法相「まずは本当に人の命をやっぱり奪うわけです。逡巡とか葛藤とかをそういうことをずっと抱えながら、命令書にサインしたという気がします。」

ナレ「今回の執行については。」

金平「この死刑執行のタイミングですね。なぜ今なんだろうかという。」

千葉「少なくとも国会中というのはあまり考えられない。そうですね。」

金平「そういう意味で言うと今回異例づくめというか、7 人という数もそうですし、」

元法相「会期中にむしろやりました。平成の事件なり問題はきちっとこうやって処理をしました。すべてこれで来年は明るく迎えましょうみたいな。」

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

膳場「オウム事件取材してきた巡田記者とお伝えします。あの死刑囚が各地の拘置所に移送されてから 3 か月の執行となりましたよね。これは今という時期この人数というのは政治判断だったと考えていいんでしょうか」

巡田記者「そうですね。早かったですよね。あの一連の事件は歴史上稀に見るですね凶悪事件でしたよね。平成の時代に起こった事件は平成の時代に処理しようというのが、政府部内にもあったと思いますね。2 つ目はですね、やっぱあの 2 年後のオリンピックをにらんだもので、非常にその死刑制度を維持している日本はですね、国際社会からすごくですね批判されているわけですよね。だからあの 13 人の死刑囚しかも宗教がらみ、国際社会

から見ればですね宗教裁判とか処刑とか誤解されやすいとそういう判断もあったんですね。近づいていく来るとね。オリンピックが。」

膳場「そういう日程も考えられていたということですよ。そして松本死刑囚の遺体についてですけども、人格化の懸念もあって誰がどう引き取るのかというのが注目されていますけれどもどうなるのでしょうか？」

巡田「一般的にはですね 24 時間霊安室においてやって、そのあとは引き取り人がなければですね、法務省の墓地に合葬されます。しかしさっきのニュースでもありましたけれども、松本死刑囚の子供 6 人がですね 6 人のうちの誰かがこう引受人になるみたいですね。だからあの今後のその教団のその権力闘争と相まってですね。非常に動向が注目されるどころだと思いますね。」

特集で多くの時間を割り当てていただけていて様々な意見を拾うことができていた報道と言える。後述の印象操作という観点では疑問が残るものの、少なくとも放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・【特集】 オウム真理教事件、死刑囚 7 人への死刑同日執行：結論→問題あり

「死刑囚 7 人 異例の同日執行」というテロップが画面下や画面右上に約 200 秒に渡って表示されていた。もっとも慣例では「同一事件に関連する死刑囚は同日に執行する」と言われており、そのことと含めて「今年 3 月には刑が確定した 13 人のうち 7 人が東京拘置所から移送され執行の時期が焦点となっていた。死刑が執行されたのは教祖で犯行を指示していた麻原彰晃こと松本智津夫死刑囚。教団の実質ナンバー 2 だった早川紀代秀死刑囚、教団の謀報省トップとして多くの事件に関与した井上嘉浩死刑囚。坂本弁護士一家殺害事件などの実行犯、新見智光死刑囚。医師でサリン精製にもかかわった中川智正死刑囚。同じくサリン事件に関与した土谷正実死刑囚。遠藤誠一死刑囚の 7 人だ。同一事件に関連する死刑囚は同じ日に執行する慣例があるといわれているが、法務省が死刑執行の事実と人数の公表を始めて以来、最多の同日執行となった」ということも番組内ではナレーションによって伝えられていた。他方で「法務省が死刑執行の事実と人数の公表を初めて以来最多の同日執行となった」ともナレーションは伝えている。

このことから「死刑囚 7 人 異例の同日執行」というテロップは、「同一事件に関連する死刑囚のうち 7 人が先行して死刑執行された」という点が異例であるという解釈も可能であるし、「7 人という人数」が異例であるという解釈も可能である。しかし、他方で「死刑囚 7 人 異例の同日執行」というテロップのみからは「死刑囚の死刑を同日執行すること自体が異例である」という解釈も可能である。もっとも、オウム真理教事件は事件そのものが特殊な案件であるので死刑囚の数を異例だという議論にいかほどの価値があるのかは果たして疑問ではある。

ナレーションによる補足説明がない特集の冒頭でもこのテロップが表示されていることから、普通の注意の仕方では視聴する視聴者に対して「死刑囚の死刑を同日執行すること自体が異例である」という事実と反する誤った印象を先入観として抱かせかねない、という点で印象操作の疑いがあるといえる。

検証者所感

・【特集】 オウム真理教事件、死刑囚 7 人への死刑同日執行

オウム事件真相究明の会の意見として、想田和弘氏の「証言をきちっとすることもなくですねそのまま殺されてしまうんじゃないかというのはこれは単純に法律の問題としておかしくないかっていう。」や森達也氏の「動機が分からないんですよ。動機をかたれるのは麻原だけです。でも彼は一審途中から完全に精神的に崩壊したと

僕は思ってます。」というコメントが紹介されていたが、裁判自体は相当の長期間に渡り行われていることを鑑みると、このまま死刑を引き伸ばしたところで証言を取ることが可能なのは甚だ疑問である。また、動機を語れるのは麻原だけという議論にしても、動機を語れるのは麻原だけであるがゆえに麻原が何を言おうがその信憑性を裏付ける物証が必要となるだろうし、そもそも物証だけで事足りるのではないだろうか。このように、麻原の死刑執行に対する懐疑的な議論はその論拠がどうにも説得力がなく、かえって麻原の死刑執行反対という結論ありきであるような印象を受けた。

また、番組中で千葉景子元法相の「会期中にむしろやりました。平成の事件なり問題はきちっとこうやって処理をしました。すべてこれで来年は明るく迎えましょうみたいな。」というコメントや巡田記者の「あの一連の事件は歴史上稀に見るですね凶悪事件でしたよね。平成の時代に起こった事件は平成の時代に処理しようというのが、政府部内にもあったと思いますね。」というコメントからは、そこまで「平成」という元号を意識するものなのか、と若干の驚きを受けた。